

貧困ジャーナリズム大賞2020(特別バージョン)

「コロナ禍と貧困」 (速報)

今年で13回目となる貧困ジャーナリズム大賞ですが、新型コロナウイルスで世界の状況が一変するなか、通常の企画内容を大きく変え、特別バージョンとして「コロナ禍と貧困」をメインテーマとして実施することにしました。(なお、貧困全般に関しても募集します。)

コロナ禍という稀に体験する大きな出来事であり、さらに、コロナ禍は集中的に生活困窮者を直撃しています。あるいは不安定雇用の労働者を一気にどん底へと追い込んでいます。そこで、過去12回とは異なる特別バージョンとして企画しました。

1 選考対象

コロナ禍と貧困に関する報道活動(新聞、雑誌、書籍、テレビ・ラジオ番組、インターネットなどのジャンルを含む)を行ったジャーナリスト個人及びグループ

2 賞の種類

貧困ジャーナリズム大賞、貧困ジャーナリズム特別賞(市民賞)、貧困ジャーナリズム賞

3 募集期間

2020年9月1日~9月30日

4 選考方法

- 1) 締め切り後に自薦、他薦の報道、作品を公表する
- 2) インターネットを通しての投票を実施する(10月)
- 3) 投票結果をふまえ、選考委員会が最終的に発表する(11月上旬)

5 授与式

2020年11月26日(木)夜を予定(会場・オンライン併用方式)

6 募集要綱

9月第1週に詳細を発表します

<貧困ジャーナリズム大賞とは>(当会サイトから)

「反貧困ネットワーク」は、ひろがる「貧困」を最大の社会問題として位置づけ、それを解消するために活動する人間同士のネットワークです。

日本において貧困に関するジャーナリズムの関心はこれまで必ずしも高いものとはいえませんでした。ともすれば一面的、感情的、あるいは官庁発表垂れ流しの報道が繰り返され、貧困の実態に関する市民の無関心や無理解、誤解・偏見等を招いてきました。他方でイギリスをはじめとする欧州の国々では、貧困をめぐる報道は日常的に多様な形で行われています。

そこで私たちは貧困問題への理解と意識を持ち、正確かつ継続的に報道するなど、顕著な報道活動を行ったジャーナリストを対象に「貧困ジャーナリズム大賞」を設けました。フリーの方でも、組織に属している方でも、実際に取材して表現する活動をするジャーナリストを対象としたささやかな賞です。

あわせて報道の成果である「記事」や「映像作品」などに一般の人たちが触れ、貧困報道への関心を高める機会にすることもこの賞の目的です。